



Title	平成27年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）フォーラム報告書 はじめに
Author(s)	小林, 傳司
Citation	大阪大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）フォーラム報告書. 2016, 27, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56634
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

はじめに

急激に変化する将来の予測が困難な時代にあって、大学には、人材育成や学術研究の推進を通して、学生と社会の未来の形成に寄与し、社会をリードする役割が期待されています。そのような時代の要請に応えるために、平成24年8月28日に中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が取りまとめられました。そのなかでは、双方向の講義、演習等を中心とした授業を通じて、学生の主体的な学修を促す「学士課程教育の質的転換」を行うことが提唱されています。本文と資料は文部科学省ウェブサイトに掲載されています。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm

教育内容等の改善のための組織的な研修等（ファカルティ・ディベロップメント、略して FD）が大学設置基準で義務化されており、大阪大学では教育学習支援センター（平成25年6月1日設置）の企画の下、FDフォーラムを開催し、学外の専門家による講演や、FD専属教員によるワークショップを行っております。

社会からの教育に対するまなざし、あるいは教育に対する改革の要求が非常に強くなっていることは、皆さんもご存知のとおりと思います。その社会からの要請に対して、大学がどのように応えるかということを考える最も重要な場のひとつが、このFDフォーラムであると思っております。特に大阪大学のような総合研究大学の場合に、研究は極めて熱心な先生方が多いわけですが、教育に関しては特にそれほどトレーニングを受けて大学教員になられたわけではありません。大学にも受動的な学習態度の学生が多くなってきており、受動的な学習態度の学生には、分かりやすく教えたり、AV機器を用いたり、演示実験を行ったり、双方向型授業を実施することが学習効果を上げる上で有効です。そのため、今、大学がどのような教育を求められているのかを隨時学んでいく、考えていく機会を、大学として提供すべきであろうと考えております。

今年のFDフォーラムでは、授業時間外学習について考えることをテーマとして、反転授業の可能性についての基調講演に続き、初めての反転授業入門実践編、授業時間外学習を促すシラバスの書き方、授業時間外学習を促すITツールの紹介、授業でTA制度を活用するコツ、種々の悩みを抱える留学生や発達障害傾向のある学生への対応についての5つの分科会が行われ、多くの教員に参加していただきました。

このFDフォーラムがこれからの大坂大学における様々な授業改善に結びつくことを願っております。

大阪大学理事・副学長（教育担当）

FD委員会委員長

小林 傳司